

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2779101241 | | |
| 法人名 | 医療法人 遊心会 | | |
| 事業所名 | グループホーム リ・リブホーム (3ユニット共通) | | |
| 所在地 | 大阪市淀川区西中島6-11-31 レーベネックス4F | | |
| 自己評価作成日 | 平成26年3月4日 | 評価結果市町村受理日 | 平成26年7月10日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター | | |
| 所在地 | 大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階 | | |
| 訪問調査日 | 平成26年5月16日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|---|
| <p>ゆったりとした環境の中で、個性を重視したケア常に心がけています。 外出の機会を多く設け、日々の生活に生きがいや楽しみを見つけて頂ける様支援しています。 法人内のクリニックとのしっかりと連携体制もあり、安心して生活が出来る環境にあります。</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>母体は医療法人遊心会で精神医療・老年内科・内科の診療所である、グループホーム・デイケア・ケアホーム・訪問看護ステーション等を展開している。理事長の強い希望で「地域に密着した場所でもう1度自宅に帰って生活できる」との思いで平成16年5月に開設された。事業所は利用者の自立を高めるよう生活リハビリを有効に使ったケアを行っている。医療連携は行き届いており利用者、家族にとっても安心感がある。年間行事には外出が多く取り入れられており、散歩、買い物、レクレーションも楽しみを持てる活動を取り入れている。職員の定着率も良く職員の育成に取り組んでいる。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者、職員間の話し合いの中で作り上げた運営理念は大きな三本柱からなり、フロア内に掲げている。又ミーティングや新人研修等には再確認できるように努めている。 | 管理者、職員で作り上げた運営理念、「個性・信頼・傾聴」フロアに掲げられている。地域密着を意識したものが見いだせないのは残念である。 | 理念は利用者、来訪者に対しサービスのあり方を示す上で重要である、事業所独自の理念を職員全体で考え、地域密着型の親しみのある言葉で表現し理解される事を期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の小学校の運動会や夏祭り等、季節の行事には参加し、住民の方との交流の場となっている。民生委員や社会福祉協議会の方を通じて、ホームの行事への参加の呼びかけ等もしている。 | 自治会に加入していないが、散歩時の挨拶や買い物により、徐々に認知度が増している。 | ビル、マンションが多い地域のため、交流の機会は少ないが、事業所の行事に参加して貰うなどより積極的な行動が求められる。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 高齢者支援室を通じて福祉事務所と相談し、取り組むとともに、認知症になっても安心して生活できる場所がある事を、アピールできるように努めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 報告だけにとどまらず、法人内専門職の参加や、入居者を交えた座談会なども行い、有意義な運営会議になっている。会議での意見はサービス向上に生かせるように努めている。 | 前年は5回の開催であった。報告だけでなく、意見も頂いている。「リ・リブだより」に家族に参加を呼びかけている、地域に開かれた事業所をより良く理解してもらうためにも地域の人達の参加が望まれる。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 区役所のそれぞれの部署には、機会の有るごとに連絡し、気軽に何でも相談できる関係性を築いている。 | 日頃から市町村への連絡・報告を行っている。グループホーム連絡会へも積極的に参加し、事業所の実情やサービスの取り組み方についての相談・意見交換を行い、向上に努めている。法人施設でDr研修を開催している。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束をしないように、危険予測や分析、対処法等を話し合う機会を作っている。玄関の施錠も身体拘束の一つ考え、夜間以外は行っていない。 | 身体拘束の弊害は職員はよく認識し、それをしないケアの実践に努めている。エレベーターと玄関は開錠されている。「外に出られるときは職員に声をかけてください」と張り紙をして配慮している。18時以降は施錠している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者やホーム長、主任等が利用者の状態に注意を払い、防止に努めている。身体拘束ゼロに向けてのパンフはいつでも確認できるように各階の目の付くところに常置している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している | 司法書士の先生と相談をし、必要な入居者の方が制度を活用出来る様支援している。又、成年後見制度についてのご家族からの相談にも対応している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居申し込み前には出来るだけ見学に来ていただき、入居前と入居時には契約の内容を丁寧に説明している。解約、改定時も同じように理解して頂ける様十分な説明を努めて行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 面会時に気軽にスタッフと話せる雰囲気作りを努めている。又、ご意見箱をエレベーター横に設置し、アンケート方式の記入用紙にする事で意見や要望が出やすいようにしている。 | 苦情・相談連絡先・意見箱にはアンケート方式での記入して貰い、意見、要望出しやすい工夫をしている。運営推進会議で出された意見はその後運営に反映させている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 定期的に行う職員との面談や、ミーティングで、様々な意見や提案の機会を設け、日々のケアや業務に反映させるようにしている。 | 管理者は月1回の会議、週3回のミーティングで職員が意見や提案を聞く機会が設けられていて反映させている。グループホーム連絡会に参加し、現場の声も聞ける双方向的な関係が構築されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員の休み希望には可能な限り対応している。昇給も年毎に検討し、職員がそれぞれの役割を持つことで、向上心とやる気を持って働ける様な環境作りに努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 施設内で定期的に勉強会を開催し、その内容を職員全員で共有できるようにしている。又、外部研修にも出来るだけ参加出来る様努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 定期的に行われるグループホーム連絡会やグループホーム職員勉強会に参加している。相互訪問なども実施し、交流の機会を設けている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 見学や、入所前の自宅訪問時には、ご本人やご家族からよく話を聴き、希望・要望の把握に努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 見学時や入所時には、ご本人やご家族との面談の時間をゆっくりとり、気軽に相談できる関係作りに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談の内容を把握し、必要に応じて他のサービスの利用も含めた支援を検討し対応出来るようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 入居者一人一人の生活歴を知り、趣味や特技等を一緒に楽しみ、介護されるだけではなく、寄り添い共に生活する関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 面会時には、ご本人の日々の様子を必ず報告し、コミュニケーションをとるようにしている。又行事のある時は事前に声かけし、参加や協力を呼び掛けている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | いつでも気軽に面会に来れる雰囲気を作り、今まで大切にしてきた繋がりが、途切れない様年賀状や暑中見舞い手紙を送る支援を続けている。 | 地域の商店街の馴染みの店に出かけたり、転居通知により友人との関係が復活し来訪されたり、年賀状、暑中見舞い等のやりとり、美容院の利用等、事業所は継続して支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 食事の席や外出時の組み合わせは、入居者の関係性に配慮しながら工夫している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居後も必要に応じて様子を見に行き、本人や家族の相談にはいつでも対応できるようにしている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 会話や関わりの中で、希望や意向を汲み取る様に努め、得られた情報はカンファレンス等で共有し対応できるようにしている。 | 職員は日々利用者に寄り添うことで新たな本人本位の思い、家族との繰り返しの会話から得られる情報等を、職員で共有し個別の希望に添うように努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご本人やご家族、担当ケアマネなど関わった方からしっかりと情報を収集し、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 記録や職員同士の申し送りなどで、状態の把握に努め、その人らしい生活が送れるように支援している。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人やご家族から生活に対する意見や希望を聞き、反映させるようにしている。日々の記録と職員からの意見も参考にしアセスメントを行い、ケアプランを作成している。 | 計画担当者は担当職員と共に、利用者、家族の希望を取り入れ、利用者本位の介護計画を立てている。常にモニタリングを行い、6ヶ月毎に見直し、変化に即応した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の記録は職員全員が読み、確認のサインをするようにしている。記録はモニタリングの一つとして反映させている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 体調の変化のある時は、24時間いつでも主治医に連絡し指示を受けることが出来る。又、ご本人やご家族の状況に応じて、通院や送迎等の必要な支援に柔軟に対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 必要に応じて実施できるように努めている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 複数の医療機関と連携をとり、ご本人やご家族が納得出来る医療が受けられるように支援している。 | 一人を除き、協力医を主治医としている。連携医療機関との往診、受診についても適切な医療を受けられるよう支援を心掛けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 法人内の訪問看護と契約し、日々の健康管理や相談をすることが出来る。又、クリニックの看護職員とは気軽に相談しながら、受診や看護のアドバイスを受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | ご本人が入院した時には、こまめに状態を見に行き、病院関係者との情報交換や相談をするように努めている。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 終末期の対応指針を定めて、ご本人やご家族が安心してサービスを利用し、日常の健康管理や急変時に対応出来る様、医療機関との密な連携に努めている。 | 入居契約時看取りは出来ないが事業所が出来る範囲を説明している。家族に寄り添いながら情報をこまめに伝えて、施設・病院の仲介をおこなっている。理解を得ているが同意を得ていない。 | 本人や家族の最も関心の有ることであり、事業所で出来る事、出来ない事を明確にし、「重度化した場合の対応」を文書化し早い段階から家族に安心感を持ってもらう努力が望まれる。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に救命救急講習を実施し、ホーム内にはAED及び救急セットを備えている。緊急対応マニュアルを作成し、職員はいつでもそれを再確認する事が出来る。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 消防署の協力を得て、避難訓練を定期的に行うと共に、独自の避難訓練の実施も計画している。運営推進会議など通して地域の避難場所や、備蓄の確保の状況などの把握に努めている。 | 年2回消防署の指導で避難訓練を実施している。マニュアルも作られ、避難方法や避難経路の確保もしている。企業全体での避難訓練も行っている。避難訓練に地域住民の参加の協力要請については不十分である。 | 地域に働きかけると共に非常災害時の対応を日常的な課題と認識し、年間を通じ繰り返し訓練の実施が望まれる。家具の転倒防止の手当、備蓄も検討されたい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 入居者を人生の先輩として尊敬し、不適切な対応や言葉かけにならない様、定期的な全体ミーティング通して、職員間で意識確認している。 | 利用者の自己決定・自己発揮を促し、且つ尊重するよう、支援に際しての言動に十分注意した対応に努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ディケアやレクリエーションの参加は体調を見ながら促し、入居者自身で選択出来るよう支援している。一人一人のペースを大切にしながら、その人らしい生活が出来る様支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 希望時は、近隣の馴染みの理美容院へ行ける様にしている。好みの洋服を選んだり、お化粧するなどその人らしいおしゃれを楽しめる様支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事の盛り付けや、味噌汁作り味見など、入居者と共にするようにしている。又おやつ作りを頻繁に計画し、考えたり調理したりが楽しみながら出来る様支援している、。 | 給食業者より調理済みの副食が配送されるが、ご飯、味噌汁、盛り付けは利用者と共にやっている。日曜日は調理専門の職員が食材の購入、レク食等利用者と共に作っている。また月1回の外食も楽しめるように支援している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事はカロリーに配慮し、高齢者に合うものを提供し摂取量をチェックしている。水分補給も好みに配慮しながら、その時に合ったものを提供し必要に応じてチェック表つけている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ケアは、入居者の状態に合わせて行っている。必要に応じて歯科受診をすると同時に定期検診の為の通院も支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 一人一人の排泄パターンを把握し、声かけ誘導を行っている。 | 個々の排泄パターンを把握し、必要により支援や援助方法をきめている、個々に応じた対応の工夫を継続している。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 朝には体操をし、気候の良い時は近隣への散歩にも出掛けている。朝食やおやつにヨーグルトを提供するなどし、自然排便に繋げている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 基本的には入浴日や回数の設定をしているが、入居者の体調や希望に合わせて適宜対応している。毎日の入浴希望にも柔軟に対応している。 | 基本週3回としているが、頻度や時間は利用者の希望に添うように支援している。嫌がる利用者には時間や声掛けに工夫し、入浴につなげている。着替えも自己決定で用意して頂くよう支援している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 全室個室で施設も出来るため、状況に応じた休息と安眠が出来、プライバシーが守れる環境にある。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | セットから服薬まで、二人体制での確認を徹底して行っている。又個人処方薬ファイル作成し、スタッフ全員が入居者の薬情報を共有し、症状の変化に対応出来る様努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 入居者の状態に合わせて医療保険下のデイケアに参加している。おやつレクや、希望に応じた散歩買物等の支援、又掃除や洗濯、炊事など今出来る事が出来るだけ継続していけるように支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 一人一人の希望を尊重し、出来る限り応じるように努めている。毎年レクリエーション年間計画を作成し、様々な場所への外出支援を行っている。 | 日常的に近隣の散歩・スーパーへの買い物に出かけている。イベントの企画で4月には造幣局の花見、万博公園に、6月は菖蒲園に行く予定である。また7階屋上庭園での花、野菜の世話、日光浴や外気浴も行われる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 金銭は事務所金庫で管理し、希望時は自由に使える様支援している。ご本人の能力や状態に合わせて支払いをしたり、出納帳の確認をしたりすることが継続出来る様支援している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 居室には固定電話が置けるようになっている。また、携帯電話を使用したり、手紙やはがきを自由に送れるよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | | エントランスにはベンチ、季節の花が植えられ、大きな透明のガラスの出入り口があり開放感に溢れている。居間兼食堂は清潔で採光、風通しも良くソファ、テレビ、壁には季節を感じる貼り絵やイベント時の写真が飾られ、居心地よく過ごせる工夫が見られる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングには食事用のテーブルと、ソファがあり、入居者はどちらでも自由に過ごす事が出来る。テレビを観たり裁縫をしたりと思いつきの時間を過ごせるように支援している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時には使い慣れた家具等を持ってきていただき、今までの生活スタイルが出来るだけ継続できるように、又居心地の良い居室になる様に支援している。 | 入口には表札が掲げられ、好みの手作りの作品が貼られている。居室はエアコン・ベッド・クローゼット・トイレ・下駄箱が用意されている。利用者が使い慣れた家具等を持ち込んでおり、自分らしい居室作りをしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | リビングや居室の必要な所には手すりを設置し出来るだけ安全に歩行出来る様にしている。又必要に応じて居室内の手すりの設置の工夫もその人に合わせて行っている。 | | |